

# あれこれ

2017年度第2号  
担当: 天童支部



★山形県建築士会女性部委員会では入会者募集中です！建築界に女性の視点を！★  
★問い合わせは 山形県建築士会へ ☎023-643-4568 <http://www.yamagata-ken.org>★

## 第29回全国女性建築士連絡協議会(東京) ①

H29.7.15(金)～16(土)

7月15、16日の二日間『第29回全国女性建築士連絡協議会(東京)』が開催されました。全国の女性建築士が集うこの会では毎回たくさんの刺激をいただきます。

私が最も印象的だったのは、二日目の分科会です。D分科会『環境共生住宅』に参加しました。コメンテーターは宮崎建築士会の内田恭代さん。自身のシックハウス症候群に悩まされた経験を発表してくださいました。

約25年前アパートに引越した翌日から体調不良に悩まされ、その2年後、新築物件に引越すとさらに深刻な体調不良に。約20年前インテリアコーディネーターの資格取得と同時に会社を設立し、建築を学ぶことになりました。目のかすみや湿疹、じんましん等シックハウス症候群に現れる症状と自身の症状の多くが一致し、自分はシックハウス症候群なのではないかと考え、試みにビニルクロスの壁に珪藻土を塗ってみたところ、5年間悩まされてきた鼻炎が3日で治り、これは…と思い合板フローリングの上に杉の無垢材を張ってみたところ、水虫が治り皮膚の湿疹が消えるという現象が。

「やっぱり自分はシックハウス症候群だったのだ」と実感したのでした。

建築業界ではこの問題についてF☆☆☆☆などの建材が使われるようになり、シックハウス症候群は起きないといった風潮ができつつありました。しかし、自身の経験から、色々な素材について疑問視した内田さんは、身近なものの実験を試みることにしました。

### 1. 大根乾燥実験

木材に見立てた大根を加熱乾燥と自然乾燥し5ヶ月後切断面を比べてみる。

結果 加熱乾燥は黒くカビが侵食している。

自然乾燥のものはかびは生えず香もよく色もきれいな白色

### 2. 食パン腐敗実験

①密閉容器に食パン+合板フローリング+ビニルクロスを入れたもの、

②密閉容器に食パン+杉無垢板+漆喰入珪藻土を入れたもの 1年後…

結果 合板フローリング+ビニルクロスの食パンはカビだらけで黒ずんでいる。

杉無垢板+漆喰入珪藻土の食パンはカビも生えず原形を保っている。

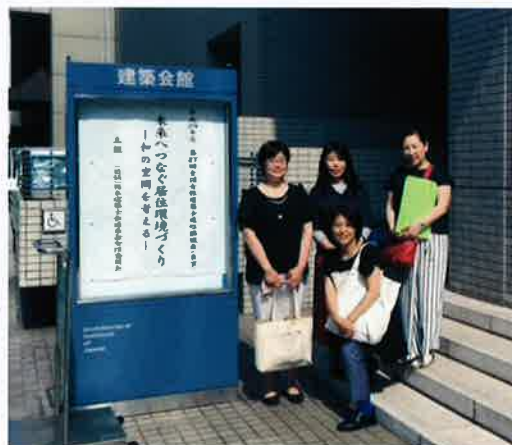
他にも様々な実験を行った結果、自然乾燥で自然素材の中にあるものの方が状態が良い、これは人間にも同じことがいえるのでは？と思い、「自然乾燥で自然素材の建築とは何？」と考えると「伝統工法による建築が理想に最も近い」という思いに至ったのです。弟宅を伝統工法で建てるべく、できる限り自然素材を使用しました。しかし、建築基準法の制約により、到底、納得のいくものとはなりませんでした。

しかし、10㎡以内の木造建築であれば建築基準法の一部が適用外となる事から、自邸を6帖の大きさを建築しようと決意。図面作成から材料調達、職人探しに至るまで時間をかけ、望んだ理想の家『六帖軒(むじょうけん)』完成したのです。

現在伝統建築を残すには非常に難しい時代。日本古来より受け継がれてきた知識が失われようとしているのではないか。かつては日本各地で伝統工法の建築が作られ、その技術や知識が伝えられてきたのに、今では伝統工法の職人は高齢化一途をたどっています。技術の継承には場数が大事です。六帖軒の建築は、技術を継承する機会のほんの小さな一歩です。と述べられました。

建築について深く考えさせられたとても有意義な二日間でした。

(山形支部:原田江美子)



「日本の伝統住宅には、場、部位、しつらい、境界、素材などにまつわる多様な用語や言葉があったが、住宅様式の近代化の過程で、失われつつある。しかし、それらに対する懐かしさと喪失感の中にこそ、住宅にとって大切なものを考えるヒントがあるのではないか。」

早稲田大学名誉教授、建築史家の中川武先生の「和の空間を考える-居住環境にとって美とは何か」というテーマの講演では、地域の環境に適した伝統的な住まい方から、変化している今の暮らしについて、住まいの在り方について、あらためて考える機会を得ることができました。

分科会は、防災、地産地消、歴史的建造物、環境共生、自治体連携まちづくり、子ども住環境、高齢社会、既存ストック。8つのテーマで討論しました。

六帖軒のお話や、空き家活用では、土地は所有者のままで、建物は子育て世代に無償提供。自由にリノベーションできるので、気軽に若い世代が住み始めて、近くの商店街にも活気が出てきているなど、実践的な話が勉強になりました。

まちづくりは、人が集まる仕組みづくりがあっではじめて、ハードの分野に何が必要かみえてくる。まずは、やれる事から始める。少しずつ良くなる。長い期間の勉強会も必要かもしれないけれど、フットワークの軽い行動も必要だと感じました。

(鶴岡・田川支部:栗本直美)

大根などで乾燥実験



伝統技法による省エネプロジェクト「六帖軒(むじょうけん)」



## 当日の行程

福島駅集合→飯館村「までい館」→原町 旬の魚菜 旭亭にて  
 昼食→浪江町 駅～駅前商店街→  
 →浪江町 まちなみ まるしえ見学→双葉町～帰還困難区域通  
 過→富岡駅→セデッテかしま

9月2日、「東北ブロック会視察・見学会inふくしま」に参加しました。新しい建物が建ち活気溢れる復興の「光」の部分と今なお残る震災の傷跡…いえ「跡」ではなく「震災中」とでも言うべき「影」の部分、福島県建築士会の方に説明していただきながら、また実際に道の駅や駅等見学しながら、今春避難解除された飯館村から南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町を経て富岡町へとバスで縦断しました。

バスから街並みを眺めていると、住宅の庭の片隅に置かれているシートに覆われたこんもりとしたもの、その中身が汚染土であるとの説明がありました。お子さんがいるご家庭だろうか…汚染土が生活のすぐ近くにある事実にはたたまれない思いがしました。

見学地の一つ、今年8月にオープンした飯館村「道の駅・までい館」は「花」をキーワードに産業復興を図る拠点として整備されたそうです。開放的な明るい施設は今回の視察の目的とは別に、建築士の端くれとしても良い刺激を受けましたが、同時に見慣れない設備に目が吸い寄せられました。

それは、モニタリングポスト。全国にあるらしいが、福島県の場合は至る所に設置されています。

「までい館」での数値は $0.08 \mu\text{Sv/h}$ 、そこに至るバスの車内では、 $0.115 \mu\text{Sv/h}$ 。ちなみに私の住む山形県寒河江市の数値は11月16日現在 $0.029 \mu\text{Sv/h}$ です。

原町の「旬の魚菜・旭亭」にて豪華な昼食を頂いたあと、浪江町の駅や仮設の商店街を見学し双葉町の帰還困難区域へバスは進みます。「そろそろ線量の上がる地域です。」のアナウンスと共にさっきまで小数点以下の数値を示していた線量計の数値が見る見るうちに2を超え、4、5と上がっていく…そして雨粒ににじんだバスの窓の先に見える福島第一原発。

バスはやがて富岡町に着きました。一時は町全体が避難区域に指定されましたが、2017年4月に解除、津波に流された富岡駅は建て直され今年10月21日竜田駅間が再開となりました。2020年には浪江町まで開通する予定だそうです。

復興大臣は、民主党時代から現在で7人目、政治に疎い私が、国がどうの施策がどうのと意見など述べられないが、福島の方はあれからずっと、生活を取り戻すため、そしてさらに住みよくするため努力し頑張り続けておられます。震災後、観光で幾度か福島市内や会津を訪れました。今回の視察・見学で同じ福島県内でこうも違うのかと、地震とそれによって破壊された原発の恐怖を改めて感じるとともに、人々の生きる希望や強さを感じました。

このたび、企画実施して下さった福島県建築士会のみなさまありがとうございました。

(西村山支部:佐藤真理)



8月OPENの「までい館」(上:外観/下:内観)



までい館の線量



バス車内の線量



いまだ開通しない常磐線「浪江駅」 線路上の仮設通路

9月2日、【女性建築士会東北ブロック会inふくしま】に参加しました。通常のシンポジウムは行わず、今年3月4日避難解除された地域を実際に訪れ、復興の様子『光』と震災がもたらした『影』をめぐる視察・見学会でした。参加者は一同バスに乗り、福島市から富岡町までの被災地を移動しました。(写真1)

AM10:15、福島駅を出発です。市街地を抜けると除染作業で出た土を入れた黒いフレコンバックの山が！その風景が何度も繰り返されます。(写真2)

ほぼ1時間で飯館村道の駅【までい館】に到着。今年3月末の避難指示解除後の住民の帰村の日常生活を支える地域福祉の拠点として8.12にオープンしたばかりです。雰囲気を一転。花と木に囲まれたとても癒される空間でした。ゆっくりと、丁寧という意味の「までい」の心が溢れ、みんながつながれる場所になるのではないのでしょうか。(写真3=P3)

南相馬、原町の魚菜旭亭で昼食をいただき、山を降りて6号線を南下。今年3月末の避難指示解除になった浪江町を見ながら【浪江駅】へ向かいます。被災当時の建物もあるが少しずつ復興が感じられます。浪江駅・富岡駅間は現在休止中ですが2020開通を目指しているそうです(写真4=P3)。【浪江町まち・なみ まるしえ】も オープンしてます。時間が止まった町から、少しづつ息吹が戻ってきていました。

「福島第一原子力発電所はクレーンの下の辺です」(写真5)と聞きながら【双葉町、大熊町、帰還困難地区】をバスは通過していきます。交差点はバリケードがはられ町の中には入れないようになってます。(写真6) バスの中では、線量計の数値が上がっていきました。(写真7) そして4月避難指示解除になった富岡町へ。【富岡駅】(写真8)をはじめ新しい建物があちこちに建設されていました。

帰路は常磐自動車道に乗り福島へ。途中【SAセデッセかしま】(写真9)で休憩&お買物。帰りのバスの中では委員長会議が行われました。大変濃い視察・見学会でした。

2011.3.11『東日本大震災』から6年が過ぎました。福島原発の報道は少なくなり意識は少しずつ低下してきています。今回の視察見学会に参加して福島原発事故は決して忘れてはイケない日本の事故であると思いました。復興は確実に進んでいましたが帰還困難地区に踏み入ると時間が止ります。今はまだ解決出来ない事があり、これから1つずつ取り組んでいかなければいけないのでしょう。いつか希望ある未来が必ず来ることを願います。

福島県女性委員長 酒井美代子さんのメールより抜粋いたします。「原子力事故による福島の復興の歩みはゆっくりです。子や孫の代までもかかると思いますが、一步一步進んでいくしかありません。未来に広がる素敵な風景を思い浮かべて…」

最後にこのような機会を設けて頂き本当にありがとうございました。福島県女性委員会皆様に感謝申し上げます。

(酒田支部:古川美紀)

写真1



写真2



写真3=P3

写真4=P3

写真5



写真6



写真8



写真9



写真7(4連)

